

ひまわり福祉会だより

令和4年1月

第36号

〒761-4122
小豆郡土庄町上庄463-2
TEL: 0879-62-4636
FAX: 0879-62-4650

発行所 社会福祉法人 ひまわり福祉会

URL: <http://www.himawari-olive.jp>

コロナ禍でもみんな元気に頑張っています！



毎年、恒例の伊喜末八幡神社初詣での記念写真

広報誌に寄せる思い

社会福祉法人ひまわり福祉会

理事長 岡 裕



今から35年前、1987(昭和62)年、「ひまわりの家」誕生と同時に現在の広報誌の原型である『ひまわりの家』だより第1号が発行されています。手書きのガリ版刷りで学級新聞を思い出させるぬくもりのある広報誌でした。

その広報誌をつくり、「ひまわりの家」創業者の一人で、支援員でもある元小学校教諭は、14年後の2001年、「ひまわりの家」が念願の社会福祉法人ひまわり福祉会の認可を取得して、知的障害者通所授産施設「ひまわりの家」として再スタートするのを見届けると、19号の発行を最後に第一線から身を引かれました。

私はその3年後、2004年、縁あって「ひまわり福祉会」に携わることになりました。広報誌の1号から19号を目にしながら、「ひまわりの家」誕生から法人化に至るまでの並々ならぬ努力を知るとともに地域の人たちの温かな支援の数々、そして障害者やその家族に寄せる奥深い愛情を感じ、勉強させていただきました。この精神は絶対引き継いでいかなければならないと思い、2005年、名前を現在の「ひまわり福祉会だより」に変えて20号として復刊し、今日まで休むことなく年1回の発行を続けてきました。

そして今回、令和4年発行の36号からは編集委員会を設置して、新しい体制で紙面づくりに挑戦してまいります。

これからも変わることなく温かなご支援をお願い申し上げます。

ひまわりの家 楽しかったクリスマス会

昨年(2021)の十二月十八日、二年ぶりのクリスマス会がひまわりの家にて開催されました。コロナ禍で、様々な行事が中止・縮小になる中、本当に久しぶりの大きな行事です。残念ながら保護者の皆様の参加はなりませんでした。利用者の皆さんにとってたくさんの笑顔がはじける楽しい時間となりました。

今回のクリスマス会は手作りの温かさを大切にし、利用者さんにゆっくりに楽しんでいただくことを心掛けました。開催が決まると利用者さんの中から、「もっと早く教えてほしいかった。出し物の練習を急がなければ」といったわくわく感じっぱいの声が聞かれました。

事前の土曜日プログラムから飾り物を準備し、当日は開会時間直前まで利用者さん、職員が一緒になって会場の飾りつけをしました。クリスマスソングがかかると期待がどんどん高まり、みんな自然と笑顔がこぼれてきます。

プログラム・進行も本格的です。例年のクリスマス会に負けていません。岡理事長の挨拶で開会し、新入職員の紹介、それぞれ事業所ごとの利用者さんの出し物と続きます。

出し物は準備の時間があまりなかったにもかかわらず、どれも本格的

です。衣装やBGMも手作りで工夫をこらしており、見ていた利用者さんや職員からも自然と拍手が沸き上がりました。それを見てステージの上もさらに熱をおびてきます。二年間分の思いを爆発させているように感じました。時間をゆったりととっている分、あわただしくなく、ゆっくりと他の人の出し物を楽しむことが出来ました。

お昼は、各自お弁当とおやつ持参です。豪華な食事やケーキはありませんが、土曜日プログラムで楽しみの一つとなっているみんなでおやつ交換をここでも実施しました。午前中の感想を語りあったりしながらのおやつ交換はより楽しさを増しているようでした。

午後からは集合写真撮影をはさんで、職員の出し物がありました。最後は、池田内科クリニック八木先生からのクリスマスプレゼントをサンタクロースとトナカイに仮装した職員が配り、楽しいうちに閉会を迎えました。閉会後もお気に入りの衣装を着ての写真撮影など、利用者さんの笑顔が止まりませんでした。

例年とは違った形の開催でしたが利用者さんからは「アットホームで良かった」「ゆとりがあつて他の人の出し物をゆっくり見ることが出来た」「おやつ交換が出来てよかった」「楽しかった。またしたいです」等の声をいただきました。何よりも楽

しい時間をみんなで共有し、利用者さんの笑顔をいっぱい見ることが出来ました。

今回新しく教室は別開催、前述のように保護者の方の参加はかきませんでしたが、今年のクリスマス会はみんなそろって開催できればいいと願っております。

(生活支援員 廣瀬 孝行)



生活介護の利用者さんの出し物
“サンタが街にやってくる”



みんなで飾り付けた会場



サンタクロースからのプレゼント！



盛り上がっている会場



就労の利用者さんの熱演
“マジンガーZチーム”

障害者福祉サービス事業所

ひまわりの家

生活介護事業

生活介護事業では、現在二十三名の利用者さんが、自分の得意分野を活かした作業や活動に取り組んでいます。今回は、余暇活動をご紹介します。

昨年度は新型コロナウイルスの流行により、たくさんのイベントが中止となりました。ようやく県内の感染者数が減り、十一月から体操教室、音楽教室を再開することができました。講師の先生との約二年ぶりとなる再会に、嬉しそうな表情が見られ、外に出る喜びや、地域の方々との関わり大切さを改めて痛感しました。

日々の活動の中では、体力の向上や気分転換を目的とした散歩、室内歩行を行っています。道端の草花に季節を感じたり、職員との会話を楽しんだりしながら、歩いています。

地域の方々から「おはよう！今日も頑張っているね！」「(リサイクル用の)牛乳パックを集めたよ。帰って帰ってね！」と笑顔でお声掛けいただき、利用者さんの楽しみの一つになっていると感じています。また、創作活動として絵画制作や塗り絵、壁紙制作などを行っています。色遣いや筆圧などに個性が出ていて、楽しい作品がたくさんできています。他にも、パズルや積み木、楽器鳴らし、



季節の歌、いろいろな楽器に触れる事、講師の先生とのコミュニケーションが楽しい時間です。



職員と一緒に得意な事、好きな事を楽しんでいます。

ボール遊びなどで楽しんでいます。大勢の仲間たちとにぎやかに楽しむことが好きな方、少人数でゆったりとした時間を過ごすことが好きな方、個々に合ったレクリエーションをしています。

今後も利用者の方々との興味や関心に目を向けて、日々の活動がより楽しくなるような余暇の提供について考え、心身ともに健康に過ごしていきたいと考えています。

(サービスマネージャー 谷久香里)

就労継続支援B型事業

就労継続支援B型事業所は、今年二名の利用者さんが増え二十六名となり、活気あふれる職場になっております。

主な作業はオリーブ畑を大切に管理し、手摘みにて収穫した実をオリーブの新漬けにしたり、自社の搾油機でオリーブオイルに加工したりして、販売しております。

その他に、アルミ缶の回収・選別作業、八幡神社の清掃作業、室内では箱折り・製品梱包等の受託作業等も行っております。

利用者さんは障害の種類も程度もそれぞれ異なっておりますが、九名の職員と共に一人一人の特性や能力を存分に発揮出来る作業に日々頑張っており、取り組んでおります。

やむを得ないことですが、利用者さんには高齢者の方も多くおり、身体能力や作業効率が年々低下してきております。

昨年、「オリーブの再生」をスローガンに掲げて、精一杯頑張ってきましたが、残念ながらオリーブの収穫量を回復するところまでには至っておりません。今後もオリーブ畑の土壌改良・植樹・機械化により作業効率の向上を図り、「オリーブの再生」に向けて頑張っております。

また、受託作業においても、様々な工夫をして作業効率の向上を目指してまいります。



自社製
オリーブオイル



利用者さんがオリーブの実を一つ一つに丁寧に収穫しています。

就労継続支援B型事業所では、利用者さんの工賃向上を目指すとともに、働くことの喜びを分かち合いたくしたいと考えております。

今後とも、就労継続支援B型事業所に対しまして、温かいご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(職業指導員 森口 忠幸)

障害児通所支援事業所

すくすく教室

「あーけーて。」クリスマス飾り作り。ビニール袋の中にカラフルなセロファンを入れようとしたけれども、袋の口をどうしても開けることができてなくて……。五歳の男の子が初めてしゃべった依頼の言葉です。まさに成長を実感した言葉であり、言葉による関係性を築くことができたことが本当に大きな喜びになりました。

今、令和三年度の五歳児健診が終わり、保護者の方々から個別療育の問い合わせをいただいています。運動、表現、素材、音楽等、遊びを通して五感を研ぎ澄ませて、「できた」、「楽しい」、「もっとやりたい」と感じるができる環境を、また一対一でかわる中で、苦手なことにも少しずつチャレンジしていこうとする環境を整えていきたいと考えています。

すくすく教室の対象児の年齢は、出生から十八歳までです。乳幼児期は出生から入園までの時期であり、また児童期は就学から高校卒業までの時期です。成長とともにライフステージが変わり、終わりがありません。この時期は、すくすく教室を卒業した後、地域の中で自立して生活していくための土台作りになる大変大切な時期です。いろいろな人とかかわりながら、たくさんの様々な経験を積み、共に育つための力を身につけていくことを療育の基盤としています。



fun fun ミュージック！
さめきこどもの国から 音楽の宅急便が届きました♪



子どもたちの「今」の豊かな生活が、「将来」の豊かな人生に繋がっていくようなかわりを目指して、すくすく教室のすべての職員は日々前向きに取り組んでいます。
(保育士 渚 美奈)



余島ディキャンプ みんなでカレー作り



オーキドホテルでランチクリスマス会☆



夏休み ペイント遊びを楽しんだよ！



森の小道を歩こう！



森の中に隠れたけもの道を歩いたよ。

共同生活援助事業所 グループホームソレイユ

グループホームソレイユはソレッツで有名な誓願寺の隣の小豆島町二面にあります。

現在、男性一名、女性四名、短期入所利用者一名の計六名の障害のある方が、世話人や生活支援員の支援を受けながら共同生活をしています。

昨年からは、新型コロナウイルス感染症防止対策により行事はほぼ中止となっていますが、休日は隣の公民館活動に参加したり、ホームの中で誕生会やお菓子作り等を楽しんだりしています。世話人と相談しながらこれまでにつったお菓子は、水羊羹やバームクーヘン等であり、お菓子作りなどの活動を通して余暇活動の充実や自立の促進を目指しています。

また、利用者にとって食事は一番の楽しみであります。当施設での人気メニューは、

☆一位 天婦羅の盛り合わせ

☆二位 蛸の刺身

☆三位 バラ寿司です。

利用者が喜んで食事をする姿は職

員の励みとなっています。旬の食材をなるべく多く取り入れ、健康管理をしながら、利用者が喜んで食事が出来るような工夫をしています。

最後に、昨年十二月より新たに三名の職員が加わり、心機一転職員一同、頑張っています。

利用者が安心して安全に暮らし、地域住民の方々とふれあいを大切にし、地域に根差した事業所として活動していけるよう全職員が努力していきますので、今後ともよろしくお願ひします。

短期入所サービス

当施設は、主に知的障害者を対象とした短期入所サービス(定員一名)も行っております。介護者の病気等で介護出来ない場合や介護者の休息等を目的に、障害のある方に短期間ご利用いただくサービスです。ご利用中は生活支援員が、入浴、排泄、食事等のほか、日常生活上の必要な支援を行います。

詳細につきましては、グループホームソレイユ【☎75-2320】までお気軽にご連絡・ご相談ください。

(管理者 若山 朋子)

二生公民館講座での制作活動



利用者さんの作品は完成度が高く、講師の先生から大絶賛されました。

誕生会



利用者さんの好きなメニューで誕生日のお祝いをしています。

相談支援事業所

ま
は
り

さらさらでは、障害のある人が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、次のような相談支援事業を実施しています。

計画相談支援・障害児相談支援

サービス等利用計画についての相談及び作成などの支援が必要と認められる場合に、障害者(児)の自立した生活を支え、障害者(児)の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援するものです。

(サービス利用までの流れは左図参照)

サービス利用までの流れ

相談・申請

- ・町の障害福祉担当窓口や相談支援事業者にご相談してください。
- ・サービスの利用を希望される場合は、町の窓口申請します。

認定調査

- ・認定調査員が自宅などを訪問し、聞き取り調査を行います。
- ・生活概況や心身の状況などについて質問させていただきます。
- ・かかりつけ医に医師意見書の提出を依頼します。

サービス等利用計画(案)の作成・提出

- ・サービス等利用計画(案)は指定を受けた相談支援事業者が作成します。

支給決定

- ・町では、障害支援区分や本人・家族の状況、利用意向、サービス等利用計画(案)の内容などを踏まえてサービスの支給量などを決定し、申請者に通知します。

サービス等利用計画の作成

- ・支給決定した内容に基づき、相談支援事業者がサービス等利用計画を作成します。

サービス等利用開始

- ・申請者は、サービス提供事業所と契約を結び、サービスの利用を開始します。
- ・サービスの量や内容等については、利用開始後も一定期間ごとに確認を行い、必要に応じて見直しを行います。

※ サービスによっては上記と手続きが異なる場合があります。詳しくは町又は相談支援事業所にお問い合わせください。

地域移行支援・地域定着支援

地域移行支援は、入所施設や精神科病院等からの退所・退院にあたって支援を要する方に対し、入所施設や精神科病院等における地域移行の取り組みと連携しつつ、地域移行に向けた支援を行うものです。

地域定着支援は、入所施設や精神科病院等から退所・退院した方、家族との同居から一人暮らしに移行した方、地域生活が不安定な方等に対し、地域生活を継続していくための支援を行うものです。

障害者相談支援事業

障害のある人の福祉に関する様々な問題について、障害のある人等からの相談に応じ、必要な情報の提供、障害福祉サービスの利用支援等を行うほか、権利擁護のために必要な援助も行います。

また、こうした相談支援事業を効果的に実施するために、自立支援協議会を設置し、中立・公平な相談支援事業の実施や地域の関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善を推進します。

(管理者 中森 健一郎)

第十二期役員・評議員

理事長 岡 裕

理事 橋本 明彦

理事 若山 朋子

理事 岡野 恵美子

理事 富田 忠孝

理事 石井 昌彦

理事 外山 洋文

理事 棟保 博

評議員 松尾 峰生

評議員 三木 義雄

評議員 大谷 隆生

評議員 新茶 善昭

評議員 余島 邦昭

評議員 山口 真理子

評議員 川田 澄子

苦情解決委員会

苦情解決責任者 岡 裕

第三者委員 川井 和弘

苦情受付窓口 棟保 博

古谷 三枝

(任期…令和三年六月十九日～令和七年六月の定時評議員会の終結まで)

(任期…令和三年六月十九日～令和五年六月の定時評議員会終結まで)

職員紹介

〔好きな言葉特集〕

本部



〈理事長〉
岡 裕
「ありがとう」
感謝の心大切に
しています。



〈事務職員〉
高橋 稔子
報恩感謝



〈事務職員〉
古谷 三枝
和顔愛語



〈清掃職員〉
安西美紀子
熱さ心

ひまわりの家



〈管理者〉
橋本 明彦
真心・誠実・
全力投球



〈サービス管理責任者〉
谷久香里
一期一会



〈看護職員〉
川中いずみ
平和



〈看護職員〉
坂口 満可
一陽米復



〈生活支援員〉
中島 大
断捨離



〈生活支援員〉
廣瀬 孝行
友



〈生活支援員〉
文野 正広
進みながら
強くなれ



〈生活支援員〉
山下 大貴
誠心誠意



〈生活支援員〉
小浦 嘉也
乾坤一擲



〈生活支援員〉
池本 住代
一日一善



〈生活支援員〉
岡崎 照代
一月三冊



〈生活支援員〉
城土井 進
愛と平和



〈生活支援員〉
三枝 篤史
日進月歩



〈生活支援員〉
柏原 彩沙
雲外蒼天



〈生活支援員〉
井本 博文
不易流行



〈サービス管理責任者〉
松本 淳二
優しさと
ほんとうの
強さだ



〈生活支援員〉
岡田 恵美
はつと息
大きく深呼吸



〈生活支援員〉
大川 晴美
切磋琢磨



〈生活支援員〉
寺岡 真実
明鏡止水

就労継続支援事業B型



〈職業指導員〉
田中 秀輝
考えるな、
感じろ



〈職業指導員〉
伊丹 正行
百聞は一見に
如かず



〈職業指導員〉
森口 忠幸
日進月歩



〈目標工賃達成指導員〉
中村 政彦
ありがとう



〈目標工賃達成指導員〉
港 勝也
出会い

きらら



〈管理者〉
中森 健一郎
諦めたら
そこで
試合終了



〈相談支援専門員〉
中澤 洋子
笑う門には
福来たる



〈相談支援専門員〉
濱脇 広子
温故知新

グループホーム ソレイユ



〈管理者〉
若山 朋子
報恩謝徳



〈看護職員〉
堀川チエノ
七転び八起き



〈生活支援員〉
谷口 富美
ラブ&ピース



〈生活支援員〉
大川千賀子
失敗は
成功の母である



〈生活支援員〉
壺井千代美
情は人の
為ならず



〈生活支援員〉
畑井 博
努力は
必ず報われる



〈管理者〉
中谷多恵子
成せばなる



〈保育士〉
砂子さおり
ケセラセラ



〈生活支援員〉
下岡 和美
聖く尊く
集しく!!



〈世話人〉
徳本 初恵
笑う門には
福来たる



〈世話人〉
吉元 豊美
一難去って
また一難



〈世話人〉
余島千津枝
人の振り見て
我が振り直せ



〈世話人〉
日下 正美
待てば海路の
日和あり



〈保育士〉
渚 美奈
継続は力なり



〈保育士〉
島本 瑞生
小さな
ことにも
忠実に



〈指導員〉
佐伯美智子
一期一会

※職員の似顔絵は坂本直也さんが描いてくれたものです。

貸借対照表

令和3年3月31日現在

社会福祉法人 ひまわり福祉会		(単位：円)	
資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	111,495,706	流動負債	11,696,879
現金預金	60,861,643	事業未払金	11,088,202
事業未収金	27,672,805	職員預り金	372,127
未収金	22,496,842	仮受金	236,550
商品・製品	464,416		
固定資産	94,893,641	固定負債	6,174,703
基本財産	43,811,403	退職給付引当金	6,174,703
建物	42,811,403	負債の部 合計	17,871,582
定期預金	1,000,000	純資産の部	
その他の固定資産	51,082,238	基本金	71,238,348
土地	95,000	基本金	71,238,348
建物	968,840	国庫補助金等特別積立金	23,029,890
構築物	1,611,940	国庫補助金等特別積立金	23,029,890
機械及び装置	1,631,074	その他の積立金	35,000,000
車輛運搬具	3,073,202	その他の積立金	35,000,000
器具及び備品	2,186,879	次期繰越活動増減差額	59,249,527
ソフトウェア	309,600	次期繰越活動増減差額	59,249,527
電話加入権	31,000	(うち当期活動増減差額)	8,673,328
その他の積立資産	35,000,000		
その他の固定資産	6,174,703	純資産の部 合計	188,517,765
資産の部合計	206,389,347	負債及び純資産の部合計	206,389,347

※詳しい財務諸表は、ひまわり福祉会のホームページに掲載しています。

〔ご寄付〕 ありがとうございました

(令和3年1月1日～令和3年12月31日) (敬称略・順不同)

中 八 野 リ(有)伊 藤 九 箭 早 平 小 まる 岡 タ キヤ 中 南 川 富
村 木 島 サイタム 賀 本 富 木 川 野 女 豆 お 野 ナ ピ 邑 田 田
良 正 チ セン 眞 義 千 博 広 紀 性 護 恵 シ ョ ル 沙 潤 忠
弘 人 コ ー 三 則 秋 美 一 子 会 (株)子 (株)ン 彰 佳 子 孝

編集後記

毎年、1月末に発行している「ひまわり福祉会だより」も、今回で36号を迎えることができました。今まで、岡理事長さんが一人で編集を担当していたのですが、さらによりよい広報誌にするために、編集委員会を立ち上げることにしました。

5名の編集委員で編集方針や改善点等を協議した結果、今までの「ひまわり福祉会だより」の良さを受け継いで、誠実で真面目な記事内容・紙面構成をするとともに、それぞれの事業所の活動の様子を分かりやすく伝え、法人への理解度・認知度・信頼度等を高めたいということになりました。改善点としては、この広報誌をひまわり福祉会のホームページに掲載して、いつでも誰でも見ることができるようにしました。なお、ホームページには、広報誌の写真をカラー写真で掲載していますので、ぜひご覧ください。

(ひまわりの家管理者 橋本 明彦)

ボランティアさんとの交流

小豆更生保護女性会の会員の方々がそれぞれの地域ごとに来訪していただき、利用者さんと一緒にオーリーブ果実の収穫作業を行ってくださいました。

今年も多くのボランティアさんにご協力していただき、本当にありがとうございました。



小豆更生保護女性会の方と一緒に

ひまわりの家ホームページ
QRコード

